

米国・ジャクソン火力発電所が商業運転を開始しました ～自社開発による高効率な大規模ガス火力発電所～



電源開発株式会社（以下「Jパワー」、本社：東京都中央区、代表取締役社長 社長執行役員：渡部肇史）は、米国現地法人（J-POWER North America Holdings Co., Ltd.）を通じて建設してきたジャクソン火力発電所（以下「ジャクソン発電所」、米国イリノイ州シカゴ市近郊、120 万 kW、ガスコンバインドサイクル、出資比率 100%）の商業運転を開始しました。

ジャクソン発電所は、JパワーUSA が 2007 年から運営参画しているエルウッド発電所の隣地において、Jパワーが許認可取得から建設・操業まで一貫して行うプロジェクトとして 2019 年 6 月に着工し、建設を進めてきました。建設工事中は新型コロナウイルスの世界的拡大によるサプライチェーンの混乱等もありましたが、機器製造工場の変更や建設サイトにおける感染防止対策の徹底などによって計画工程通りに進捗しました。ジャクソン発電所は Jパワーにとって米国市場において累計 12 件目、PJM^{※1} 市場では 5 件目の発電所となります。

ジャクソン発電所は米国で最も大規模な自由化市場である PJM 市場のうち、大需要地であるシカゴ都市圏の近傍に立地しています。最新の高効率ガスコンバインドサイクル発電所であり、高い稼働率が期待されます。

ジャクソン発電所は、再生可能エネルギーの間欠性を補完する役割も果たせることから、環境への配慮と安定的な電力供給の両面で地域に貢献します。また、簡易な改造にて、燃焼時に CO2 を排出しない水素の燃焼が可能な設計となっていることから、水素利用の検討を進める予定です。

J パワーグループは、米国における電力の安定供給に貢献するとともに、2021 年 2 月に公表した J-POWER “BLUE MISSION 2050”に掲げるカーボンニュートラルの実現に向けて挑戦していきます。

※1：PJM は、米国東部地域における独立系統運用機関（Independent System Operator）で、北米最大の卸電力市場の運営、電力システムの運用を行っている。運営地域はその名の通りペンシルバニア・ニュージャージー・メリーランドから始まり、現在はデラウェア・イリノイ・インディアナ・ケンタッキー・ミシガン・ノースカロライナ・オハイオ・テネシー・バージニア・ウェストバージニア・ワシントン DC も含んでいる。

<添付資料>

ジャクソン発電所 プロジェクト概要